

Ⅲ ウルシ樹林の育成技術

専門技術員 松本 信夫

林産部長 青野 茂

林産部長 我妻 実

(現 福島林業事務所主幹兼次長)

1. 目的

県内の人工造林によるウルシ樹の生長は個体差が大きく、その要因として、土壌条件があげられており、植栽密度、肥培管理について検討し、育成技術の体系化を確立する。

2. 試験内容

(1) 試験実施場所

本場内

(2) 植栽年月日

昭和59年4月3日

(3) 植栽方法

表-1のとおりである。

(4) 施肥年月日

平成元年4月13日と2年4月11

日に実施した。

(5) 試験区

表-2のとおりである。

面積約800㎡の平坦地の植

栽密度試験地に設定した。

(6) 管理方法

施肥は根元より概ね半径1mの円形に深さ15~12cm、幅30cmの施肥穴を掘り、試験区にもとづき行った。下刈りは年2回(5月下旬、8月上旬)行った。

3. 調査方法

(1) 生長量調査

調査は毎年生長停止期に樹高と根元直径(地際20cm部位)について行った。

表-1 植栽方法

所在地	福島県林試内 3林班の小班		
面積	805㎡		
地況	平坦地、砂質土壌、一部整地跡		
植栽年月日	昭和59年4月3日		
供試苗木	会津(高郷村)産 2年生		
植栽密度	1,000本/ha	1,500本/ha	2,000本/ha
植栽本数	37本	30本	36本
有効本数	13本	10本	14本
植栽方法	植え穴:深さ30cm、直径30cm 1本当り (パーク堆肥2Kg) (乾燥けいふん1Kg) 植栽時施肥		

表-2 試験区

区分	調査本数	施肥量(1本当り)		備考	
		平成元年	2年		
1,000本/ha	けいふん	14本	5g	5g	けいふんは、乾燥もの 化成肥料は、 N:P:K =8:7:5
	化成肥料(I)	12	440	900	
	化成肥料(II)	10	220	450	
1,500本/ha	けいふん	8	5	5	
	化成肥料(I)	11	440	900	
	化成肥料(II)	10	220	450	
2,000本/ha	けいふん	10	5	5	
	化成肥料(I)	15	440	900	
	化成肥料(II)	11	220	450	

4. 結果と考察

(1) 生長量調査結果は表-3のとおりである。

植栽密度別による施肥ごとの生長を比較すると樹高生長は1,000本/ha区では化成肥料(Ⅱ)、1,500本/ha区は化成肥料(Ⅰ)、2,000本/ha区は化成肥料(Ⅱ)が大きかった。根元直径の生長は1,000/ha区では化成肥料(Ⅱ)、1,500本/ha区はけいふん、2,000本/ha区は化成肥料(Ⅱ)が良かった。

植栽密度別では樹高、根元直径とも1,500本/ha区が他の区より、大きかった。

元年の調査では1,500本/ha区が全体の年間生長量が小さく、試験地造成の際の表上が削られたため、土壌条件の悪化により今後の生長が懸念されたが、2年の調査結果では反対に樹高、根元直径とも他の区より生長が大きかった。これは樹冠の閉鎖などの影響によるものなのか、また今回の調査では密度や施肥による差は明らかにならなかったため、今後も継続して試験を行い検討する必要がある。

表-3 ウルシ成長量調査

試 験 区	調査本数	平成元年				2年				
		樹 高	生長量	根元径	生長量	樹 高	生長量	根元径	生長量	
1,000本/ha	けいふん	14本	464cm	68cm	98cm	23cm	538cm	74cm	102cm	4cm
	化成肥料(Ⅰ)	12	392	65	85	21	482	90	99	14
	化成肥料(Ⅱ)	10	409	67	87	20	505	96	101	14
1,500本/ha	けいふん	8	434	20	76	21	523	89	89	13
	化成肥料(Ⅰ)	11	335	51	64	18	453	118	71	7
	化成肥料(Ⅱ)	10	331	55	55	15	427	96	70	15
2,000本/ha	けいふん	10	529	63	92	19	627	98	92	0
	化成肥料(Ⅰ)	15	562	67	99	19	655	86	99	0
	化成肥料(Ⅱ)	11	558	99	98	21	663	105	106	8